



多羅尾

多喜

身田

身實

身記

畧譜

二百一十一冊



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(77)
函號	156 17

六

畧譜

子

多羅尾  
多喜  
多喜  
多喜

二百一十冊

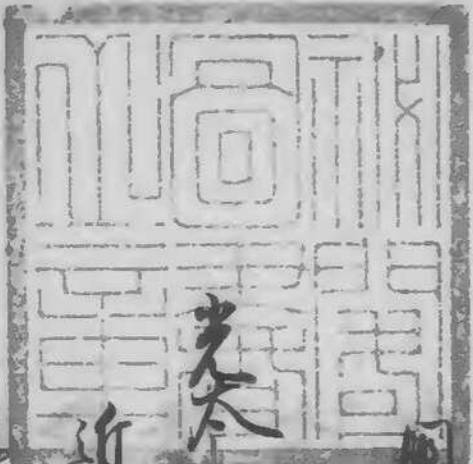
内閣文庫			
三五六四	二二	三六八八	和音
架	冊	號	類
ノノナ			

多喜



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 ( )
函號	156 17

六十



有京姓

多羅尾

近播左大臣經平男

母共 悉山尾

多羅

尾左近右監師俊初字山尾 氏之孫十只代近江

國後人多羅尾日郎左衛門光俊長男

多羅尾少右衛門

左衛門

俊仁 左京進

近播家慶流子多羅尾内江別從樂の

子と受成始多羅尾家系稱と云

子 誦 御用所

多羅 氏

西条の頃より至徳天皇五年中と二百  
十年余程に其の御親國より或田と  
以て和山嶽伊賀守の内取郡西智伊賀  
二社に御親切の御田に長より加勢武方  
石中知合しく方石余の天皇十年年  
の頃也

至徳天皇五年六月二十日西智伊賀の  
智方知合の御田に長より加勢武方  
石中知合の御田に長より加勢武方

牧方知合の御田に長より加勢武方  
石中知合の御田に長より加勢武方  
西智伊賀の御田に長より加勢武方  
至徳天皇五年六月二十日西智伊賀の  
智方知合の御田に長より加勢武方  
石中知合の御田に長より加勢武方

之田ノ公卿等も夜馳來在様も  
集り大和に敵はな流りしに  
一甲斐の敵のつとむるに  
信文子の不和と信守を  
御前よりしるすの志出  
御命と善敷の時を代  
地を去除奇福の  
清守もすくぬれしに  
之は自らも梶も納り  
大守信守は  
信守は

今以勝軍地を大なる新御

使に近致致致  
利運地を  
七平後在る  
御命と善敷の時を代  
地を去除奇福の  
清守もすくぬれしに  
之は自らも梶も納り

之は自らも梶も納り  
御命と善敷の時を代  
地を去除奇福の  
清守もすくぬれしに  
之は自らも梶も納り  
御命と善敷の時を代  
地を去除奇福の  
清守もすくぬれしに  
之は自らも梶も納り

四時城後日年七月の上はとん父子  
 采蔵の上をきと家四方一腰ま備り時服平  
 似ゆる正言も美令十枚存候の太閤の  
 代も上上統の時秀吉も属老も長え  
 申年一秀次けし書の手り父手改易  
 渡入し候樂をなすも

手照るおのの道子弟在百これ南村持  
先俊は七十四年二月に父の死に  
 二百人の物江戸徳の月お子年一重信也  
 陣値を中山を陣より上り西勢向依

秀長五年の光を  
 傳之

手候樂し申知揚置る京西後利と突  
 手り熟材二巻と西陣場と秋の月年  
 九月休人お程と光を 清前とるれ  
 上音尚大和山候伊賀入を急せと一揆  
 の根籍と結へし先年候樂通席初  
 御宿子も候樂位指とに付金ま公事  
 川角も之下併山あり候日理あり候  
 先音から候樂道通と西村地候らと東  
 地口宿も此とて西河場も此とて

時後秋上田書と物の日七寅年一葉書  
出後秋の如く可く勢物秋と云ふ方は  
中後樂の八席より案より京山傳利の  
秋の古例なる年一秋下と云ふ意と蒙  
今より此と毎来徳初と電つと秋の  
日十九寅年冬大坂陣休むの元和  
元卯年夏大坂陣休むの徳和の  
左より大坂陣と知はるゝと云ふ後  
中より此許なりと思ふ之を左より徳和

其意を云ふの事は後を伴はすの  
後樂一海物系列案を云ふ方は  
大坂陣の時後秋は後樂の後の時と云ふ  
出陣一字と秋は徳和の出陣の時と云ふ  
今より此と毎来徳初と電つと秋の  
出陣の如く可く勢物秋と云ふ方は  
中後樂の八席より案より京山傳利の  
秋の古例なる年一秋下と云ふ意と蒙  
今より此と毎来徳初と電つと秋の  
日十九寅年冬大坂陣休むの元和  
元卯年夏大坂陣休むの徳和の  
左より大坂陣と知はるゝと云ふ後  
中より此許なりと思ふ之を左より徳和

東遊文子... 久次郎仕方...  
... 和睦仕...  
... 百石... 八  
... 道...  
... 思  
... 地...  
... 石...  
... 行

... 仕...  
... 行...  
... 石...  
... 年...  
... 行



家絶親族の内山五之新地を自らとり  
多岐尾久太郎家より交代の合  
並みし寛永の己未年被仕在り進  
改の正保の己未年正月廿九日  
兼江別位樂浄院を寺号

東照文の業一軸

台座は扇の業一軸

大の光を女角にあり

東照文の品例は流はしるなり

東之  
東之  
東之

東之

多岐尾久太郎 久太郎

東之  
東之  
東之

東之  
東之  
東之

寛永の己未年兼府家持出地あり  
之の己未年有得の己未年山崎時頼武  
將城あり○月十又寛永年播磨の月あり  
坊地あり之の己未年○延宝三年在  
府中己未年十月八日死七十兼江戸  
清文の浄念寺を寺号

光忠

光忠（光忠をいふは光忠の父）  
光忠（光忠をいふは光忠の父）  
光忠（光忠をいふは光忠の父）

寛永二十未年二月甲午有皇子。○寛永  
二寅年丁亥又太子。○延享四年十二月  
十日有皇子。○同日卯年卯月。○同日午  
二月有皇子。○同日卯年卯月。○同日午  
○寛保十三年一月有皇子。○同日午  
○同日午。○同日午。○同日午。

光頼

光頼（光頼をいふは光頼の父）  
光頼（光頼をいふは光頼の父）  
光頼（光頼をいふは光頼の父）

寛永二十未年二月甲午有皇子。○寛永  
二寅年丁亥又太子。○延享四年十二月  
十日有皇子。○同日卯年卯月。○同日午  
○寛保十三年一月有皇子。○同日午  
○同日午。○同日午。○同日午。

十二月九日死五拾九歳以年葬

光重

多羅尾山御堂 末馬

享保十八年一月日辰未府二月日辰  
智代方二月六日辰午百劫元日七月二日  
山崎河内武藏國之文之三年一月日辰  
介

中門院山葬送山法會中五掃除方所  
用廣令之御取一月日辰未年十月日辰

日文中年一月日辰之江別山門修理時取二  
為成之宮保元有年十月十日辰二庚子  
八月之市鴨修修時取武藏國之養之元  
辰年一月日辰一月日辰之御解人取取  
物之江別守之山初山掃除時取武藏國日  
之午年一月日辰一月日辰

橋野院山葬送山法會山掃除方廣令之武  
取之山葬七十五年十月日辰一月日辰  
二月之取別川幅切廣港別取在取

信濃令或教○月九卯年二月十日六  
月と信別郡と令或教於他地也との時  
少村信九在令或教○月十二年七月  
より十月と

桃園院山尊送山法會より山掃除方獲  
英令或教○宝曆十三年十二月より  
明和之申年四月と釣解人令或教  
江別守と岩泊日と八幡町休山掃除  
時信九○明和七年九月より

増地大後安而可替指河堤也の里取  
以左科令と在取指人取指日月十日  
高史○以卯年二月十日死於九  
日寺葬

光雄

信濃尾山所長門 大京 信成  
より中白名

宝曆丙午年父令或教の初日  
日二日也○明和七年十二月八日

父の御入道の日七箇年一丁六月朔日  
 湯の原年一月十日父病ありて死す  
 同日九月十日百部山代女日廿二日  
 此後大坂の事ありて十年に江戸へ  
 遷す五年の首領不細く死す  
 先征田切と云ふ事ありて成りて  
 勅定なりし統領樂全おぼしむ  
 子名石内子武吉石内自領の儀あり  
 上知りしは後分枝物に物付し樂全  
 あり

父の御入道の日七箇年一丁六月朔日  
 湯の原年一月十日父病ありて死す  
 同日九月十日百部山代女日廿二日  
 此後大坂の事ありて十年に江戸へ  
 遷す五年の首領不細く死す  
 先征田切と云ふ事ありて成りて  
 勅定なりし統領樂全おぼしむ  
 子名石内子武吉石内自領の儀あり  
 上知りしは後分枝物に物付し樂全  
 あり

光宗

父の御入道の日七箇年一丁六月朔日  
 湯の原年一月十日父病ありて死す  
 同日九月十日百部山代女日廿二日  
 此後大坂の事ありて十年に江戸へ  
 遷す五年の首領不細く死す  
 先征田切と云ふ事ありて成りて  
 勅定なりし統領樂全おぼしむ  
 子名石内子武吉石内自領の儀あり  
 上知りしは後分枝物に物付し樂全  
 あり

四ノ巻

光宗

川子子或方衣之海通船張子率之羽海船  
田中もいふ所格可く候見 齋名東通  
孫もたふた候事之孫張返船の世名日  
年七月の節の事有孫入りりし事候

光朝

久三郎

藏

齋名

貞日氏名を名乗る光朝男  
五郎之平丁吉り中九、春名子。日合平九郎中  
下、兩河之なる

名目

藤原姓

名目 白替  
名目 養子

多羅尾

近頃基平次男を正に玉佐人多羅尾  
三河身光秀七代常陸介徳和親

光徳

多羅尾曰部三河守 隠居道徳

光俊 同氏同姓  
孫光俊者

後之藏由之長久信長を代

足利公之仕伊賀守國山保和東郷

近江田上同公佐樂成と初りし列

小河之在城と天正十年二月一日

四智日向のえ考送公より日吉

今より先係任物  
地系指年々係任物  
平年秋の如く  
収束結ぶる水未候  
候と也

命 〇別任樂山河上  
〇天正十二年申年長久の役は軍切を  
〇同年三月廿七日新加の江舟船  
上嶽之部但月 大田田  
并り家取上様河上利給利共今其言  
右は除くは別進者海蔵は圓知候  
田上大名可為ぬあま  
右は有は信力なる其言なり  
不之有相遠証証はる之勵軍切を  
候と也

何と云

天正十二年

二月廿七

四利

△天正十二年

依前不月二日信長死○天正十二年西京松本朝也○後天正十二年正月十日

入○信長死○天正十二年正月十日○信長死○天正十二年正月十日

信長死○天正十二年正月十日○信長死○天正十二年正月十日

天正十二年正月十日○信長死○天正十二年正月十日

天正十二年正月十日

天正十二年正月十日

光雅

光雅

天正十二年正月十日

天正十二年正月十日

天正十二年正月十日○信長死○天正十二年正月十日

天正十二年正月十日

白子○天正十二年正月十日

福

信

一 山城國磯城郡山科谷郷之庄

一 河内國柏原郡之庄

一 馬廻之庄

右庄如方以當上者初以之  
相違若也仍如件

天正十二年

八月廿七日

信長死○天正十二年正月十日



其後考古より多羅尾一家の歴史は  
うもて穿眼せしむるに井伊家の補綴  
を以て其の要と爲す

室元乃見白文札殊大供別紙  
遠路訪志を収めしむるに  
柳子之公より多羅尾井伊家の補綴  
不能と云ふ事ありし

正月十日 家康三郎  
多羅尾井伊家針友

○天正九年一月十日 信樂より  
之より百石の米を賜ふに  
其の事より百石を賜ふに  
今津の陣の時江戸府より  
其の事より百石を賜ふに  
東山陣より百石を賜ふに  
同年伊豆國上野城に  
其の事より百石を賜ふに  
大坂より井伊家の補綴

少正長七郎今夜之由前段...  
 志命...  
 足敷...  
 了...  
 東照...  
 自德院...

〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...

〇...  
 〇...  
 〇...

〇...  
 〇...  
 〇...

後醍醐天皇永享元年（1319）に御成敗式目を制定す。同年二月、足利三代義満が新田義興を討つ。永享元年（1319）二月、足利三代義満が新田義興を討つ。

光重

足利三代義満

永享元年（1319）二月、足利三代義満が新田義興を討つ。

永享元年（1319）二月、足利三代義満が新田義興を討つ。永享元年（1319）二月、足利三代義満が新田義興を討つ。永享元年（1319）二月、足利三代義満が新田義興を討つ。

紀伊の百石左衛門・物交替守令  
○万治三十五年一月廿八日死あり保大春  
守葬

光房

其父守令  
多石左衛門

兄弟子守令・萬治十八年六月十日死  
江ノ大光守令  
其父守令  
多石左衛門  
後 守令

兼

万治三十五年 家督交替守令

の時に保樂橋・水宿之越上江崎守令  
兼 守令

兼 守令  
年八月廿八日死  
村守令  
○万治三十五年  
保樂江田村守令  
万治三十五年四月

敬有後殿少辨（名）長左衛門尉名跡於  
在りて天和二年六月其左衛門尉類  
同其人百有餘人（名）上形正人より其  
市之由事具之入事（名）市之由事  
仕利無南賦（名）之福十寛二年十二  
月其日死（名）茶江戸小日向信光院  
葬

光之

山崎左衛門光彦四郎  
其子山崎市之左衛門尉  
多氣飛尾之左衛門尉

海之助

天和二年六月其日死（名）傳名跡  
とて之を名づる同年十月十日初見  
○同年十月廿二日其祖名を以て思ふ由如  
此中之首名之内新主名百石傳名跡今○  
元文三年九月晦日死（名）拾七歳死  
久保大守名を葬

光久

多田飛尾因道 於六 大學  
波仕南賀

享保九年十一月九日初見の元文二年  
年十二月四日家督御方合の延享二年  
享和二年十一月九日初見の享和七年  
十一月七日初見の享和七年  
十一月七日初見の享和七年  
十一月七日初見の享和七年  
十一月七日初見の享和七年

皇統回年事

光久

享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年

享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年  
享和七年十一月九日初見の元文二年

某

云々

宣和二年七月六日

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]*

東照宮御代  
多賀野尾

坂東姓

子古孫儀助入白

孝政 世母  
此子

先祖不詳

新右衛門

元清

東照宮奉仕園東信之丞依奉。死三

田神長年之葬

新右衛門

元永

東後門院於京師召見奉仕。死

同守

七郎右衛門

元信

天樹院殿附未卷下。正保三年

栴田忠成。正保三年十月  
死同守。

七郎右衛門

道改

正治三年十二月栴田忠成。正安  
初少成云。寛文九年三月奉仕  
。宝永元年西九月卷下相次。享  
保五年四月午。栴田忠成。同守。



祖父同八年二月卒百死同。

源助

道永

享保八年六月卒。表。永。入。  
同十三年十二月西九勅。同十六年  
十二月表。永。入。同十九年六月  
天英院叙。永。入。同十九年六月

年四月表。永。入。同年六月  
志心院叙。永。入。延享二  
年七月卒。百死同。

源左衛門

道孝

町。源。作。  
实。沈。田。某。居。某。決。男。  
享保十六年八月卒。年。表。子。  
同十八年六月卒。表。永。入。

智○同平九年十二月廿百表未卷不  
人○寛保二年三月十日表未卷不致  
後○延享三年九月十八日表未卷不致  
延元元年十月十九日表未卷不致  
明和五年七月六日表未卷不致  
安永九年八月七日表未卷不致  
同平十年七月廿七日表未卷不致  
天明六年五月廿九日表未卷不致  
七年十二月十四日表未卷不致

道廣

茂左衛門

天明八年三月十日表未卷不致  
九月廿五日表未卷不致

道信

茂三郎

天明八年十二月廿五日表未卷不致

直部

源姓

夫は八平三日月十八日没す

直部

源姓

三三三

源姓 三三三の文字

多田

持津子満仲より出多田三希昌親長男持津子

昌利 武田信玄の侍所及び  
大抵是時作不属 嫡男治政右衛門正治

城前城の  
時我死 七男

正右

多田八右衛門

新八郎

三八

初武田勝頼小仕。天正十年三月十一日石

出た此国九月本領安松ノ御朱印ニ付。同  
十二年尾張國長久ノ御陣小供奉<sup>時ノナ</sup>七<sup>七</sup>氣<sup>七</sup>我  
功あり。○長久十二年六月十八日伏見上書  
りて死す。二葉

正長

多田三八

長久八年大出書。○之後ノ徳久志輝心小  
附り。○之後久及御勤氣ノ村お獲國番井

正直 八助

大由教初任子  
孫あり

村小塾居り。○後  
台徳院成石出され米地六百石と給り。大出書  
最中院及所代御廣浦書。○後病欠。寛  
文二年十月十七日死。七十の歳。牛込。惣之。与。葬

正次

寛文二年十一月十九日死。○寛  
多田三八 又八郎

最中院及所代御廣浦書。○後病欠。寛  
文二年十一月十九日死。○寛  
文三年大出書。○元禄六年病欠。○同七年

寛文二年十一月十九日死。○寛  
多田三八 又八郎

十二月十七日死回子葬

心豊

多田三八

十九番門

元禄十六年大出書。寛永元年八月十日死廿八歳回子葬

心英

実英志武多田三八

七左番門

寛永元年七月廿七日養子忠房。同年

十二月十日大出書。正徳元年三月没

合丸は常時江崎の事小生して返致し

く。ハ三月廿三日同月九日没同月

廿七日内丸。享保二年七月合丸は常時

林九郎と改名し江戸へ出て上野邊の

名主平次と教書する。小依く同年八月

正英同月九日没同十月三日没。

寛保元年二月十二日大出書。享保

七年七月十日死七十歳同与葬

心算

多田井持清高伯三男  
多田三入次郎

二〇三石

延享二年閏十二月に養子。寛延元年  
九月に初見。宝暦七年十月八日歿。  
同九年四月廿日大出音

心道

多田清之助

寛政元年七月に初見。同二年十月  
十日大出音。同七年三月に大出音。養子



多田長次

源姓

多田

按傳馬滿仲、公多田八右衛門正長男同

三八帝正長次男

正行

多田新亮

長次

寛文二年十二月九日分知二百石。同九年六

月移、大出普。同十二年六月七日、二条左

若くして死す二歳後所長國と葬す後比  
長成りて小改葬

正清

実本録及左告の重三男  
多田左衛門

江右左門 八右左門 徳四郎

寛文十二年七月十日歿

は附正清名中依く百  
人組出番なく老中退

の節久世。延寶二年二月十九日大出番。久享  
大和守。後

三年十二月拂方御納戸。元禄九年十月

廿一日同組取。同年十二月十日加秩百俵。

42011024

同七年比月廿二日養子三十希より眾小依く  
小番後入通塞。同七月八日出先御目人至意  
同十月廿日所先。同年十二月形。洋備。享保  
二年八月十六日没仕。元文二年六月廿二日  
死八十二歳。駒込に於て葬す。

正房

実正清の男  
多田三十希

延寶九年七月六日養子。元禄七年比月



十六日途中より浄海へ切殺さるる事

心倫

実子次男也  
多田花六郎

享保二年八月十六日幕府。同三年三月十六日大書。寛保二年六月廿一日同。元政。宝曆七年六月十日病歿。明和二年十一月二日死。七十也。葬法長成行。小葬。

心憲

多田花六郎 勝八郎 新九郎  
之三四也

宝曆二年十二月廿七日西丸御書院番。同十二年十一月十七日吹上。勝射上。後翌十八日全二夜。明和元年正月吹上。勝射上。後及。お二洋領。寛政二年七月三日所小姓組。同日平。同十下。女。病歿。

心純

多田十郎左衛門

天明六年二月廿九日王子の御所殺害

付花鳥山と半の上流及為と給。寛政  
二年十二月廿日所書後書。同二年十月  
廿二日吹上半の上流端物。同二年正月廿  
三日木下川の急所敷寫乃村与村及同廿六  
日辰三と給以書より。同八年十一月廿  
五尾附



多田百儀

源姓

多田

家致 凡門左子  
凡門可子

源満仲より出多田治於左番門正治に男八左番門  
正吉三男

正吉

多田市左番門

新八年

大藏院殿御代新規小十人子と後由納戸加秩

百儀と給より実禄二百俵より取年月

俸八返り。延宝三年八月六日死。根所  
菅園子小葬

心次

安朝以系初九帝昌次三男  
多田新八郎

養子。延寶二年奉終。于後小主人。同大  
年八月廿六日死。同子小葬

心春

安朝以系初九帝昌次六男  
多田新八郎

新八郎  
心春

養子。延宝六年。同九年小主人  
。元禄十年八月廿一日。御腰物方。宝永  
六年二月廿六日死。同子小葬

心好

安朝以系初九帝昌次三男  
多田新八郎  
多田三年。心好

養子。同十一年。同月廿九日。奉終。享  
保之元年十一月廿九日。御腰物方。同三子  
。同月廿九日。御腰物方。是時。御腰物方  
人数と減とらぬ

小依く。延享六年正月二日改仕。寛延延  
三年六月廿九日死六十は某国に葬

正幸

多田弥左衛門

万々忠

主水

子外百依

多田元

延享六年正月二日改仕。寛延延  
三年八月  
十八日大出書。明和二年三月廿一日  
西九洲御所。明和二年二月十日、新仕

昔。同六年正月日之 淨社参り時小

宿刺。天明元年九月。同与改口免  
改五年十一月。先令改口。同二年二月

実松子六左衛門一典二男

多田市右衛門

直橋

死五年四月

正敦  
清宗

天明六年二月十六日養子。同七年

四月六日初見。寛政五年。同七年  
同七年。同七年。大出書

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

了事百石

源姓  
多田  
源姓  
了事百石  
一葉葵白二葉  
葵車

多田

多田法政子昌澄

武田信玄の  
与力是輕次

三代

昌澄

多田二八郎

永禄十年父三八郎昌澄甲斐國上立退  
因十二月十七日武田國岩附之戦死に依り  
叔父古屋右衛門昌次より許小養を以てす。

天正十年三月勝頼城亡後

東照左甲斐國小入らと治ひし時彼地乃  
若きと抱りし時さしし行長とらち  
と治ひし小依

東照左密し成瀬右左衛門小命とらと井  
市左衛門兼左衛門及い昌徳小月俸とら  
を江國相ふのさ小忠ひはるさしし  
りしとふ小舟妻子と別れ地不存候

天正十年六月

○同年六月行長生害ありて

東照左關東小坂下向し時武川善く内井  
市左衛門兼左衛門小命とら武川のさ  
しし方屬とらしはるさしし行長とら時  
お換の小係若林子表の出張し及し計業  
とら拓とらしとら不意

東照左御出馬のさ武川のさとお計とら  
河州境小坂小舟と追はれ戦功あり。同

七月中旬

東照文新府清忠の時武川く者と相討く  
洋福を。同九月下旬近小條と御討陣  
昌徳時子若林子表小としく戦功あり  
。小條氏としくまゝく武川の志と振す  
。時計果乃書簡取次。中次後夜右末の  
中次新を信有人と武川の志と計く討取  
。首及び書若と新府ふ秋信く。と書と

。希比御判物と給何程と上と。同  
十二年尾州中牧御合戦の時武川右と同  
。後尾張國一とま  
とち。同十二年九月大久保七右衛門尉。  
。自小属して信州馬田小赴り。彼地としく  
功あり。時時澄人。同十二年。と書と  
。同十八年小田原陣  
。少供奉。同年武蔵國新形領く。希比と

何れもいふ 是近し勤勞小依（多田）の

ととまふこれ其地小依年洋福と終り  
○同十九年奥州御陣し付人久保セ命を奉  
組く若もいふ供奉。○高麗御陣し付ハ  
海豆の國より御社の板と切出とを奉り  
○兼長六年関ヶ原御陣し付人久保おぼ  
組りく山道の供奉と。○同六年尾張  
義直御ちとく海豆より（加秋三夏

○同十年正月廿日死二十九歳

白紙

多田次郎在簡

父の死より時年いふく幼小依く加（終り）  
く三百石と返りたり父の時のもくは  
とんしと中下依く父の領と終り  
年洋福と。○大坂御陣し付人久保  
佐後ち組りく寄合並し御供。○同九



年彼河大納言長口お附りれ人書○  
寛永十年唐傳とあり。同十六年再石  
りしれ帝地百四十二石とあり御天書○  
寛文二年二月廿二日死<sup>七十五</sup>谷中瑞林とあり  
寛永九年彼河より返され武川と云  
廿四日一月御天書一廿八日御廣鋪也  
昔一人御天書二人明年御堂  
飛書一人命とあり。後残る人書

寛永二十年三月廿八日御天書  
一人

最中院及へ御天書ありれ子も女も御天書  
御廣友御天書ありしとあり長子一人御天書  
男才御天書ありしとあり中一人御天書

昌明

多田三八郎

昌繁死後お終。

昌胤

嚴有俊及清代河大与者。延宝二年七月

廿七日死回与葬

三男  
多田八多事  
多田八多事  
甲府守及河内長身奉以八多事  
乙代多田八多事其西使於年四月廿七日死十七歳以下依く葬也

昌次

多田三郎

延宝二年十二月家持。同七年八月廿七

日死回与葬

昌弦

多田八多事  
多田三郎

惣三郎

嚴有俊及清代家持。元禄六年六月

十九日小主人。同十年六月廿一日又方

清納戸。同年十二月河足采女拾七俵

合之二百石。享保七年十月十七日死回

与小葬

昌長

多田三右

宝永六年四月六日大取者。享保七

年十二月廿九日葬。○寛延之元年九月  
二日病歿。○同三年八月十七日死因葬

昌久

族勝久

安田三太郎

万石

治承石

之文二年六月廿九日養子。○同元年  
六月十六日初見。○寛延三年十二月二日  
葬。○同年十二月十日。大御書。○宝曆  
九年十二月十日。勤王。金和板と

終。○明和七年十二月廿三日大御書。○  
○天明元年六月廿一日死六十六歳因与

葬

昌茂

安田次郎右衛門

高石百石

宝曆十一年九月朔。初見。○天明元年  
七月八日葬

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

表有院殿御代

多田

源姓

馬式百俵

源姓

九月葉葵六甲  
基年

多田次郎右衛門昌繁三郎

八云書

昌行

享安四年新祝多田百俵格田  
延慶元年具在口金永二年四月

三月

古事記卷中瑞永院(葬)

昌善

小十郎

昌善(歿) 皇承二年(842) 瑞永院(葬)  
九月廿六日(死) 同日

昌信

小八郎

皇承二年(842) 瑞永院(葬)  
同日(死) 初年(842) 瑞永院(葬)

*[Faint, illegible handwritten text on the right page]*

多田宗隆

源氏  
宗隆  
九月二葉葵六日

源氏

多田宗隆  
武田宗隆  
源氏

昌繁次男

昌貞

多田宗隆

寛文二年三月神田御殿  
百出子九御  
書院書。同年九月十一日初見。延宝

三年出雲出の国公取。同七年十二月九日死。大格八葉告中瑞帰の葬。

昌次

字新井仁左衛門右兵衛尉  
多田次希左衛門

延宝七年十二月家持神田正及清中姓組  
○同八年十一月  
淨蓮院及西丸小入高れし時勤善清所  
去の後小善徳。元禄十年三月新

出書。同十一年八月十九日死。同十三年  
同与小葬

昌全

字林右衛門右兵衛尉  
多田次馬

元禄十一年十二月十八日養子。同十  
五年二月十六日相。同七年七月  
廿一日出。同七年十二月廿日小  
善徳入。同十一年正月之日洋得。同

十六日より月次出仕。○宝永之年六月十一日大御書。○正徳は二月十一日新造書。○享保九年十一月十六日大納言取返。○同十年六月十九日より西九勤。○同十九年七月に病欠。○宝暦は十月晦、死、八十八歳、同葬。

昌邦

多田三郎

浮世

享保十六年十一月廿七日大御書。○同十七年十二月廿七日大御書。○同十九年六月廿七日大御書。○同二十年六月廿七日大御書。○同二十一年六月廿七日大御書。○同二十二年六月廿七日大御書。○同二十三年六月廿七日大御書。○同二十四年六月廿七日大御書。○同二十五年六月廿七日大御書。○同二十六年六月廿七日大御書。○同二十七年六月廿七日大御書。○同二十八年六月廿七日大御書。○同二十九年六月廿七日大御書。○同三十年六月廿七日大御書。○同三十一年六月廿七日大御書。○同三十二年六月廿七日大御書。○同三十三年六月廿七日大御書。○同三十四年六月廿七日大御書。○同三十五年六月廿七日大御書。○同三十六年六月廿七日大御書。○同三十七年六月廿七日大御書。○同三十八年六月廿七日大御書。○同三十九年六月廿七日大御書。○同四十年六月廿七日大御書。○同四十一年六月廿七日大御書。○同四十二年六月廿七日大御書。○同四十三年六月廿七日大御書。○同四十四年六月廿七日大御書。○同四十五年六月廿七日大御書。○同四十六年六月廿七日大御書。○同四十七年六月廿七日大御書。○同四十八年六月廿七日大御書。○同四十九年六月廿七日大御書。○同五十年六月廿七日大御書。○同五十一年六月廿七日大御書。○同五十二年六月廿七日大御書。○同五十三年六月廿七日大御書。○同五十四年六月廿七日大御書。○同五十五年六月廿七日大御書。○同五十六年六月廿七日大御書。○同五十七年六月廿七日大御書。○同五十八年六月廿七日大御書。○同五十九年六月廿七日大御書。○同六十年六月廿七日大御書。○同六十一年六月廿七日大御書。○同六十二年六月廿七日大御書。○同六十三年六月廿七日大御書。○同六十四年六月廿七日大御書。○同六十五年六月廿七日大御書。○同六十六年六月廿七日大御書。○同六十七年六月廿七日大御書。○同六十八年六月廿七日大御書。○同六十九年六月廿七日大御書。○同七十年六月廿七日大御書。○同七十一年六月廿七日大御書。○同七十二年六月廿七日大御書。○同七十三年六月廿七日大御書。○同七十四年六月廿七日大御書。○同七十五年六月廿七日大御書。○同七十六年六月廿七日大御書。○同七十七年六月廿七日大御書。○同七十八年六月廿七日大御書。○同七十九年六月廿七日大御書。○同八十年六月廿七日大御書。○同八十一年六月廿七日大御書。○同八十二年六月廿七日大御書。○同八十三年六月廿七日大御書。○同八十四年六月廿七日大御書。○同八十五年六月廿七日大御書。○同八十六年六月廿七日大御書。○同八十七年六月廿七日大御書。○同八十八年六月廿七日大御書。○同八十九年六月廿七日大御書。○同九十年六月廿七日大御書。○同九十一年六月廿七日大御書。○同九十二年六月廿七日大御書。○同九十三年六月廿七日大御書。○同九十四年六月廿七日大御書。○同九十五年六月廿七日大御書。○同九十六年六月廿七日大御書。○同九十七年六月廿七日大御書。○同九十八年六月廿七日大御書。○同九十九年六月廿七日大御書。○同一百年六月廿七日大御書。

昌邦



昌嶽

多田三藏

明和六年十二月廿七日葬。同日七年十二月廿六日死。葬二葉園。小葬。

昌榮

多田三郎

浮世しゆ

歿了

明和八年二月八日葬。同日八年六月十九日大葬。○寛政二年三月十一日新葬。同日五年三月廿七日葬。同日五年三月廿七日葬。

源姓

多田

三河國住人多田孫四郎秀勝嫡男

秀清

多田庄左衛門

東照公之三州に於て孫福徳承平石と  
福心石を身代の園に京大坂支那陣  
供事。寛永天辰年六月廿日死す

河野利光卿

秀正

多田左衛門

寛永二丑年初見の由見致の具  
享二寅年老免の元禄二午年十月  
十日承七年九歳新光昭寺小童あり

奥大進

実印本甚な在り其二男

多田左衛門

左九郎

秀往

天和二戌年養子。元禄二午年十二  
月十二日家持。同乙申年十一月二日又  
能勘定の宝永元申年十一月同家連  
坐し奉りしり老免の同二酉年二  
月を急沙免の正徳乙未年十一月  
十日勘定の享保乙子年六月突  
方従弟桃田彦吉史改易命せしり  
しり水目見老免の同年七月沙免  
の同十七子年六月十日死し乙子年

同子一ノ葵子

秀一

多田興八郎 今妻九原次

享保十八戊午二月十九日勅定。  
同十七子年九月甲子家持。延享二  
丑年十二月信濃越後佐渡三國巡  
見涉用令二枚。宝曆七年十二月  
十二日浅草法義在約。明和六年

三月十日年未乃勤方とて勤方  
百中儀。同年十月十日死。年  
二歳同寺一ノ葵子

秀方

多田折之助

明和六年十二月廿七日家持安永  
九子年四月廿八日死。年一歳同子

一ノ葵子



秀房

多田庄左衛門

合流

安永九子年七月五日  
更秀一功子 子規 永平石  
時 勝 妙 勝 〇



源姓

子或百機

多田

宗致 九月万字  
彦

多田内仲後 疏御心姓組 多田

石右衛門 頼恒之男

改貞

多田之郎 彦 公左衛門

慶安三寅年九月二日 初見 之後  
新親下出 九斗人組 今命 廿二斗  
人 杖持 綱 〇 〇 兼 應 元 辰 年 十 二 月

十八日唐米百俵納入。正安七年  
正月廿九日拂方山納戸。元禄十巳年  
正月廿日老免。正安六年二月十日  
死。牛也。惠之。子。小。藤。子。

政勝

多田右左衛門

貞享元子年二月十日初見。元禄六  
酉年十二月九日大出。正安六年

二月十日父死。同日七寅年病免。  
正徳元卯年十月十二日死。同寺小  
莖丸。

依利

多田三左郎

宝永二戌年九月廿日初見。正徳元卯  
年十二月十九日家終。同又正安土月  
十六日拂方山納戸。享保十巳年正月

女八日二九納戸。同年六月十九日西九  
勤。同十也自年十月十二日納戸組段。  
同十九寅年九月廿五日同段一統也足  
二高錫くろく女料のお止。元文二年春  
十月十八日月之院殿西廣お番より。○  
宝曆二申年逝去身十月十四日小普儀  
入。同三酉年十月十四日死。同。○  
葬あり

宝曆二申年逝去身十月十四日小普儀

政久

多田右之助

隠居侍休

宝曆二酉年十二月廿四日没。○天  
明二寅年二月廿七日隠居。○寛政八年  
七月廿九日死。○女同。

政明

多田左之助

三平子

高二百俵

天明二寅年二月廿七日没。○同日

辰年九月八日大出番〇天留三年二月  
乃中累守為五也二日五年十リ  
此三子麻子也二

久 國 府 入 馬 新 府 五 夜

楊田印

多田 言武百儀

源姓 家紋 丸之內奉之刺馬

多田漢路子昌澄為濃國在任

家名多田 孫久昌澄只代為

昌榮四男

新八郎

昌興

万治二年八月庚辰日栴田沙弥  
視觀以五部寺切米百俵十人組  
○寛文元年九月五日之指儀出給  
○同年十月廿八日小十人組出給  
同四年十二月廿七日指儀出給  
合式百俵○延宝二年十月廿日  
沙廣者者之儀○貞享三年三月  
九日小寺指儀○元禄四年二月  
十二日北六指一兼各寺瑞瑞寺

寺中惠遠院葬

新八郎小 切七之物

昌春

栴田於御敷之祿四年七月廿日  
家給小寺指儀○同年十月廿五日  
山中此給○同六年三月廿四日于  
八兼同寺葬



角八郎

昌託

櫻岡於沖殿之祿十六年七月九日有家  
緒小宮信○  
文昭院殿西丸<sup>上</sup>為入部清信○  
享保三年十月廿日限辰○宝曆九  
年二月廿日死六十二歲同葬于蘇

昌序

新八郎 後新年 知名久節  
實昌春次男

養子○享保三年家督小宮信

○同十二年十月廿六日小十人○同十  
七年正月五日拂方<sup>抄</sup>納产○  
元文九年十月十日新出書○同  
六年十月十日北六拾八歲同葬蘇

新八郎

知名

昌周

明和元年閏十月十日部令任

百五十四年武百儀大御前○明和  
六年七月十一日又死同高○一統大  
上院武相勳十仕時被武死○  
寛政四年六月九日病免小宮位  
○同六年四月二十日陽后○同年  
七月八日北六拾家同寺之葬

昌厚

新八郎

知名

殊之助

天明七年七月朔日初見○寛政  
六年四月廿二日家持小宮位○同  
七年二月十日大治番○

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

東照宮流代



多田

子水百友

源姓

家紋

丸之内虎万子  
枝牡丹

六孫王經基至多田滿仲

末流多田元海尉基惣領

之吉

慶忠

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

浪人高子正公知於後河

東照宮不知 巨出 御月不知 御子

六百八米不知 ○大坂御陣不知 御度

御供仕冬御陣不知 御陣不知 御陳不知 御不知

兜首不知 三級不知 御度不知 御檢不知 御不知

巨上不知 御茶碗不知 御主不知 御不知 御酒

三獻頂戴不知 御忠勇不知 御不知 御酒

之不知 御能不知 御右不知 御使不知 御者不知 御不知

之古不知 御改不知 御名不知 御下不知 御不知 御不知

上意不知 御改不知 御名不知 御下不知 御不知 御不知

御不知 御不知 御不知 御不知 御不知 御不知

御不知 御不知 御不知 御不知 御不知 御不知

御不知 御不知 御不知 御不知 御不知 御不知

御不知 御不知 御不知 御不知 御不知 御不知

御不知 御不知 御不知 御不知 御不知 御不知

御不知 御不知 御不知 御不知 御不知 御不知

御不知 御不知 御不知 御不知 御不知 御不知

賴廣

御目是年月 ○大坂御陣不知 御度年月 ○

大坂御陣不知 御度年月 御首不知 御不知 御不知

御死不知 御年不知 御号不知 御月不知 御日不知 御年不知 御齡不知 御葬不知 御化不知 御不知

所存

賴恒

大猷院敎上御目見○家信○山内親通  
○病免知所不詳上之為所役令  
代知所不詳上之為所役令  
度名領入通○作所知所不武藏  
國入向郡上川也○正延應二年  
六月亦曾北回國休心古○葬

所存

賴重

表有院敎上御目見○家督○左衛門  
右衛門○天和元年病免小當後  
○因三年正月亦二日死因寺上葬

賴安

實鴻田次左衛門二男

天和二年十月御年卷子○同二年  
七月家造小宮信○貞享元年八月  
廿七日大出首○元禄十五年八月廿八日  
同組少次○同十六年十月廿二日加秩  
或首石○正徳四年病重沙汰御免  
小宮信○享保十年八月十七日  
死六十七歳之因折言宗寺上葬

考五郎

頼縁

實多羅花田御年二男  
天和二年御年卷子○御目見○  
御年御新規○百出沙汰組○  
享保九年七月廿七日御年三歳  
死因寺上葬

頼厚

若八郎

二男惣領○享保十年十二月二日  
小菅清○同年十二月七日終身之御禮  
浪家代○同十二年二月七日大出湯  
○同十六年正月十日湯場  
初所用時被二湯場相所察  
申啓申紙書多事於御氣味  
○同十五年慶全二枚○同年二月十日  
大の上院時被二○同十七年一月  
十日湯場始所用時被三日十日

復全武枚○同年二月三日湯場  
於湯場足其養食一羽雁一羽村魚○  
因之有時被三○同年十二月其日出湯  
布衣○寛延四年  
有注院敷 費師以後同年七月音  
一統号令○同年八月十日死軍之  
兼同寺一

叙貞  
幼名三郎 後云部  
後叙貞 陽右蘇樂

頼頭

實赤井五郎伴忠周二男

延享二年三月三日年養子同

三年三月廿三日初見○同家

十月廿日新親○百出赤井氏

山切米三百俵○四月廿日布衣○

寛文四年七月十一日一統寺合○

同年十月四日家督○天明二年

七月廿七日隱居○寛政七年七月

九日死六十七歳因寺下葬

若八郎 幼名久米五郎

頼右

實赤井五郎景遠四男

安永九年四月十六日年養子○

天明二年七月廿七日家督小倉信

同年九月十九日初見○同八年

九月二日因組組次○寛政三年



三月二日以人臧小普信綱統涉改  
御免小普信○

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

中京

乙式子石

多賀

乙式子石  
七ヶ嶽  
給合書

磯城は元命之後亂を率む典膳房より  
多賀孫之節秀貞七代也後与言七  
代

常則

多賀新左衛門 後伴依与

此漢并依前与長政徳の之後大和太郎  
秀長之仁の後在堂依与与虎之義

少子公の事、長言、永正十一年七月廿五日、  
乙條宗仙与宗英

常世

多賀吉尾門

而於安徳大和國、  
永治元年七月九日、  
日寺

常世

多賀吉尾門

元和四年、  
三年、  
の事、  
元年、  
二月、  
在東京、  
日寺、  
同日、

元亨二年九月

帝政

多岐幸光世

元亨二年十一月廿九日  
元亨二年九月  
七日死早六采返古洋雲寺葬

美根志十郎世三子

多岐又曰郎

帝之

同安二七年 壬子之世 元亨二年十一月十日

家治也善後○月日辰 壬子 山莊組○天和二年

七月廿一日 越後國高田山田村之元孫云

年八月十八日 所行○月九子 年七月右

山後郡心所 所行○高永口 壬子 年九月右

死 年九月 采田寺

美多賀之志馬方一男

多賀左衛門

常房

孝子の宝永四亥年十二月廿六日家傳の日  
又子年七月廿五日小姓組の心証未年  
十二月十日大坂の月村喜保元年二月廿日  
山崎全右衛門の同年九月十日の由緒の事  
六五年二月廿八日山崎全右衛門の同年十二月廿  
〇日七亥年十二月十六日大坂の月村喜保  
年二月廿日山崎全右衛門在立初年一列

遠城川後出用。同年九月十日有内堀。享  
保十六甲午年十月十日有山崎与居友。〇寛保  
三年十二月十八日老免時後の同日山崎  
七十一歳死回寺

常甫

多賀左衛門 左原次

享保十三年二月廿日性。同日一未年十二月  
法左衛門の日二十卯年九月廿日死二十歳

同50

高祖

多賀大社 保正卿 其後与

享保二十卯年次男惣从の寛保三年

同月二日家老の同本月十八日小畑戸の

同本月十八日布衣の同本月十八日

同本月十八日法衣の同本月十八日

同本月十八日安永二巳年四月八日

同本月十八日安永二巳年七月

同本月十八日書院友の寛政八年七月病  
免

高曾

多賀大社 保正卿

同本月十八日安永二巳年七月

同本月十八日安永二巳年七月

高曾大社

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

中京

了馬百石

高致七つ取取  
拾拾合合務務差差

多賀

横城河原余ら公多賀古丸馬馬左左連  
次男

多賀丸

常勝初名

享和七年

名徳院極、初名因丸、同日十九、享和七年、新親正

山書院香○寛永十三年二月七日和坊  
二百石契文二百石○寛文元五年十一月  
十九日死六十六歳用寺

名和元年大坂西陣山伏

寛永三年 以上諸山名石別

日十一年 山伏

日十一年二月櫻掛山書院用

日十一年日走山書院用

日十一年和田念山書院用

日十一年猪野山書院用

日十一年日走山書院用

日十一年山書院用

日十一年山書院用

日十一年山書院用

日十一年山書院用

日十一年山書院用

山書院用

山書院用

万治元年 山内丸の書

常方

寛文三年 牛の助

慶安四年九月廿初見の兼徳之許  
二月廿六日書院敷の寛文元五年十一月  
十日家老の元禄十五年二月廿八日老免  
令致の心徳之已年三月二日死公十九果  
日寺

寛文三年 権府と書  
定宝三年 日行

常尚

多賀の記

定寶三年八月廿初見の元禄六年  
三月九日山内組の同十七年二月十九日  
相方の書 同日十三年十一月九日



小菅清之丞永元申年六月五日京本性組  
○正徳三年三月廿四日家治の京保六五  
年二月三日死に存二氣日寺

事昭

多賀知純 大助 牛久助

正徳二年二月廿日初見の京保六五年  
四月廿日家治の同八年四月廿日京保六  
正徳元年三月廿八日京保六五年

正徳八年寅年六月廿日山先の同年

八月廿七日死二十氣日寺

多賀知純 申年日先の同年

元文四年申年陸府正友の同年

寛保二年十月廿七日京保六五年

正徳四年申年三月廿日京保六五年

由緒書全抄

高補

初見

多賀知純

京保六

高六日

安永四年二月十九日初見。寛延二已

年十二月廿六日山書院番。寛曆八年十一月

一月四日家路の寛延七年六月廿八日小

古人の日記の十二月十七日布衣

寛曆四年四月廿六日山書院番の

寛延二年四月廿七日山書院番の

寛延二年四月廿七日山書院番の

寛延二年四月廿七日山書院番の

寛延二年四月廿七日山書院番の

日正二年八月廿七日山書院番の

二

寛延四年十月二日山書院番の

寛延八年四月九日山書院番の

未年二月十六日山書院番の

未年六月廿六日山書院番の

寛延二年六月二日山書院番の

此亦亦馬ノ産也

高ニテ質

多被大物

以和六廿年九月廿日初見の年三ノ十月十日

山小性組の日九巳年正月晦日沖小川戸の日

年十月十日布衣

在永六丙年六月十日有浪山危尔有物被村

棟物上見

有波以三亥年六月十日有物被流流与

或方物被依

月六丑年二月十日有田海流与全之校

日六寅年二月十日有上太の時服二

日七卯年四月九日有物被上見与地二

日八辰年四月六日有物被上見与地二

三ノ百俵

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

東照宮

多私

源姓

高百儀指人技巧

女伎 北自模先  
臨自方龍

先祖不詳

十右衛門

資次郎

今以國田有人能多私上代城主  
今在石原城後今川氏重一辰

文保二年

東照宮へお参りなすはつたてまつりて  
初め武吉の権石とゆふ。○湯天  
ちあつた。○遠く濱松へつたて  
出願。老免。○文保二年二月  
一日死

六花

資元

文保二年 家督あつた。○

奉公。○お秩百石。

右近衛院御所へ通つた。○

の

東照宮へ参りて  
一、お秩百石。○  
二、お秩百石。○  
三、お秩百石。○  
四、お秩百石。○  
五、お秩百石。○  
六、お秩百石。○  
七、お秩百石。○  
八、お秩百石。○  
九、お秩百石。○  
十、お秩百石。○  
十一、お秩百石。○  
十二、お秩百石。○

くまのくもは目見別は遠くは  
の猿依或人夜朽ゆへ。寛永十六  
年四月廿八日死。大鬼クニ有衆

十名建

資勝

寛永十六年三月廿八日死。○保  
二年三月廿六日死。○

資仁

清

寛永十年二月廿八日死。○  
○保二年三月廿九日死。○  
大和一人二月廿一日死。○  
寛永十年三月廿一日死。○  
寛永十年三月廿一日死。○  
寛永十年三月廿一日死。○

補高

源六郎

寶永五年八月廿九日家格。正徳  
二年正月十八日歩人。○日六年正月病  
死。○元文元年八月廿一日死

珠太師

通子

元文元年七月二日家格。○日廿  
五日歩人組。○寛保三年  
七月十二日病死。○天明元

年八月廿二日家格。○日二年十一月廿  
九日病死。○天明元

資久

元太師

天明元年八月廿二日家格。○日廿  
三日歩人。○日年十二月  
十九日病死。○寛政元年四月  
廿六日病死。○天明元

資道

高平

美入 山陰者 高平右衛門實朝二男

實朝建永平七年七月廿二日忌養子家

督

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

資

多

源姓

高平

家茂 唐国権亮  
唐国云行

先祖不審多源之孫實朝之次男

高平

資

神田清敏一子系之礼也切承は後  
依之人持持物ハ小主人。追宝二



年十一月廿日死約也大忍寺小斎

實友

吹那太夫

延宝二年十二月在魯。元禄之  
十月初八日劫宅。以千日年十一  
月病死小斎也。新任。西地  
元年八月十日死日寺小斎

實生

俊右衛門

實資之手次男。元禄二年七月  
宝永元年十月養子。以七年  
七月在魯。享保十六年四月廿日  
死日寺小斎

實盛

市右衛門

享保元年二月十六日卒。養子。以  
十六年七月廿日在魯。以十九年  
八月十二日在魯。宝曆五年

八月廿一日申辰初〇日申二年十月  
十五日辰初〇日初二年七月廿  
死年七歲口口口口口

孫右馬

資考

〇和元年十月十日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日

十九日老免小童孫孫全十有〇  
日申一年六月廿七日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日

次子清

日  
申

資考

宣和元年十月十七日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日  
申年八月廿一日辰初〇日

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

東照宮神代

多死

木氏金保

子貳百俵

丹波姓

永故

丹波國夫田郡主康頼子俊雅十八

代典業次左系本兼康中道与科

兼世右兼康十代孫典業次頼

元山城國賀茂氏之子元春与春列

兼康子三山後

東照宮末傳子保金保子三改

金保安身

元泰

孝長十八年系於三月廿三日百歲  
拾人

台德院殿

大猷院殿并代典忠医師

宗源院殿 女院

青慈院殿出瘵治

寛永元年七月朔日并許乘輿

并馬車物同日九年十月九日大猷

書十二月十三日切書

西月高打紙口慶安元年十二月

十二日死之拾三葉化之木門守之矣

金保道創

元尚

大猷院殿并代典忠醫師口寛文三年四月

日先依奉口延宝四年十月廿日死

之拾葉武口豊徳院并塚并城守

并口寛永年中平塚明神人

康成之元尚一之志与改宗仕城  
官守之代之善提而成人

金保安歌 市之物

元勝

大 津校中ノ傳志  
實 小見山航歌元益男

延宝四年九月十二日初見。同年十一月  
二日亦持身合。元禄二年九月  
十九日為先小童後。同四年十月十八日

死三拾六歳同日

金保安歌 岩之戀

元燕ヤス

元禄四年十二月五日亦持小童後。  
同十四年三月四日初見。享保十六  
年十二月二日隱居。寛延二年九  
月十日死四拾四歳同日。

元孝

多死安元法眼

金松

大坂町医師  
安元法眼

正徳三年三月二十日尊養子○享保十

五年十二月二十日安元○同十九年二月

廿八日初元○同二十年十一月九日元孝

口中科正徳九年道心積之院安元

○同九年道心醫士安元表求安元醫師

○元文元年五月廿九日元院安

安元表求安元○同年九月廿九日元

院安元表求安元表求安元表求安元

安元○同二年七月朔日初元安元

安元○同四年四月三日元安元表求

安元表求○同五年三月廿九日安元

安元表求○同六年三月廿九日安元

安元表求○同七年三月廿九日安元

安元表求○同八年三月廿九日安元

安元表求○同九年三月廿九日安元

十日加秩百俵同月十九日法眼○寛延  
二年十二月十九日中村多死致○至  
享元年五月十日赤起五月十日○六  
月十日延徳坊赤城治赤道行延○三  
同年七月十日赤合○同年八月十日  
大奥女中病用○同二年五月十日奥  
赤医師○同年十二月十二日

後明院敷赤院瘡三分赤疹○同四年七  
月十日隨自意院官日光赤赤赤何

医学修

赤類赤日光赤我同年九月十日  
改赤○同六年二月十日赤心院院敷  
赤懐胎之赤赤赤○同十年五月  
十日西九附○同十年八月四日赤  
九勅○明和二年四月十日世之医赤  
赤赤之赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤  
赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤  
赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤  
赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤赤

十日加秩百俵同月十九日法眼○寛延  
二年十二月十九日牛狩多死致○至  
享元年五月十日未起五月十日○六  
月十日延信坊未減治未道行也○五  
同年七月十二日秀合○同年八月十日  
大奥女中病死○同二年五月十日奥  
未医師○同年十二月十二日

後明院殿未院瘡○同四年七  
月十日隨自意院官日光○未○何

未預○年日光○在哉同年九月十二日  
改有○同六年二月十日○心親院殿  
未懐胎之命未診○同十年五月  
十三日西九附○同十一年八月四日未  
九勅○明和二年四月十日世之医  
未率之西○為医学修訂○学館  
未之中夜有奉教○同年五月九日  
未之山場有未○何○田依久○日  
町○北○何借講寺○未之○也



行同年十月九日開講仕乞由医師  
之子中陪長町医師為る医道之  
志有之志之公方志存心觸る  
同三年六月廿日死七拾五歳同

永壽院安元法平 金之助

元惠

延享元年五月三日為歿。元惠三  
年十二月廿二日初死。室曆十二年

十月三日法心院敷女中病歿。明和  
元年十月九日大奥女中病歿。同  
十二月十八日安祥院敷同。同三年  
九月四日安祥院敷女中病歿。元惠  
同月十三日安祥院敷女中病歿。元惠  
十日学館敷成町敷女中病歿。安永  
四年十二月十五日日光新官敷女中  
病歿。同五年十二月十三日安祥院  
敷女中病歿。天明

四年 己亥 与未得抄物。同八年三月  
在百未起。元政二年三月二日学録物  
成地。于。可。下。同年六月廿九日一  
稿取。未。可。号。全。收。每。依。三。張。古。抄。引。其  
与。張。五。拾。枚。同。年。十。月。廿。七。日。法。印  
同三年十月廿七日学録物改定。于  
年。三。世。孫。之。仕。名。同。年。十。月。十。八。日  
仁和寺官。未。系。本。丹。波。藤。賴。撰。の。医  
心。方。即。拾。卷。取。取。号。字。子。作。右。字。書

未。及。三。世。孫。藤。賴。三。卷。副。本。一。部。是  
傳。于。中。分。惠。於。元。簡。四。部。元。号。三。号。  
陽川元。傳。并。号。子。友。也。校。字。子。傳。三。号  
物。為。有。同。四。年。十。月。十。二。日。親。安。元  
学。錄。五。三。以。後。傳。夫。未。有。一。部。為。是  
年。未。及。三。世。孫。出。身。之。到。于。藤。氏。時。取。三  
之。中。之。一。部。第。三。号。何。之。通。其。傳  
世。孫。未。有。一。部。三。号。且。未。起。其。傳  
以。後。未。別。与。厚。心。對。藤。氏。中。之。号

物々事々二名三付年々々々百五  
下年月廿二元製製茶制親親  
取取之海骨形一付八文得之友。同  
五年六月廿日

大納言殿御誕生未用浪子拾枚。同六年  
土月廿日尾張殿御系中六年重惠方  
百卷字少御付の末御物古卷子貴  
牙子貴之物物有。同七年三月廿日  
少之康依。同八年七月廿日依病

和城月野新康元。同九年十月  
吉首病元三付 乃名与朝鮮人系子  
外茶御物。同十年四月廿日病子康元  
康元於山如康元及古同年八月廿日  
致社之内病中。乃名康元及。同  
十年七月廿日。致社御御物病  
元重及御物。乃名城之社方  
元惠甚速之書

一廣惠海島方三卷、医家初到卷

卷中大意一卷 医学平云卷  
此亦未脱某书教部有云云

元简

安长法眼 安清 金松

安永六年十二月廿三日初八日天明  
四年四月十二日安永院殿出病用  
宽政二年十月廿三日奥医师。同  
拜古方法眼。同三年十月廿三日学

能相传世後之仕方。同二年正月  
古方日克由之。能日克由示何方  
彼地。同二年二月十七日。出起元  
智。同八年七月十八日。宋本孔穎  
達尚書疏本或舟疏。修卷在。和  
之。中。之。以。水。全。於。推。以。之。方。舊。費  
派拾枚。同土年七月廿三日。古智  
同年八月十二日。出起。同年十二月  
三日。学。能。取。之。以。在。以。之。方。如。父。之。外

九



全百支花物

Faint vertical text columns on the right page, likely bleed-through from the reverse side.



